

5. ハザードマップを災害の備えに上手に使う

災害の報道があると必ず住んでいる地域のハザードマップを確認してくださいということが言われます。ハザードマップはほとんどの自治体で発行されています。一度は目にしてはいても、普段から目につくようなところにはあまりないと思います。このマップは、自分の住んでいるところを中心にして周囲がどのような災害の危険があるのかを知ることができますので、避難場所や避難ルートなどを確認するときに役に立ちます。

そして、平常時にも地域の地形などにも関心を持つことで、いざというときに適切な行動ができるということにも役に立ちます。加えて、他地域へ出かけた時や滞在するときなどにも、安心並びに安全を確認する上でも役に立ちます。

まずは、パソコンで国土交通省が公開している「重ねるハザードマップ」を見てください。全国の洪水、津波、土砂災害などの、警戒または危険域や避難所の情報を地図に重ねて表示でき、それぞれの説明もあります。そして、各市町村の「わが町ハザードマップ」を見るとより詳しくわかります。避難する場所についても、あらゆる災害に万能ではありませんので、その辺も確認しながら災害時を想定してシミュレーションすることも大事なことになります。ハザードマップについて、関心がもてたところで、ぜひ自分や家族、地域で災害リスクを明らかにするためのチェックシートを使って話し合っけて盛り上げてほしいと思います。事前に知ることが大変に大事だし、なんとなく思っていたものを確かめはっきりすることで有益なものです。

ところで、何をチェックするのかというと、まずは自分たちが暮らすところについて、標高や地形、液状化するかどうか、盛土なのか地山なのか、建物の造り、家具などの耐震対策、浸水・氾濫の危険、土砂災害の危険域、火災発生時の延焼、災害に応じた避難場所や一時避難場所などになります。次に、いつもの通勤や通学路について災害時を想定して迂回路や通行方法を見直してみることです。そして、どのような最悪の状況が想定できるのかを確かめることです。そのときに冠水、切り盛りの道路、がけ地などに気づくこともあります。災害時の迂回路なども話し合っておくことも大切なことです。三番目は、避難所や備蓄、災害グッズのことです。避難所はそこへのルートの安全性や災害に適しているかどうかですし、避難所について過剰な期待はしないことが大切です。また、在宅避難や近くへの避難も検討しておくことが望ましいと思います。そして、災害時に大事なことは食料、水、トイレです。どうすべきなのか、備えとしてどうすればよいのか、防災グッズも必要最少限のものはなにか、について話し合っておくことも欠かせません。